

# 心の旅路

呉市長  
小村 和年



高校球児達の

健闘を称える（続）

1月27日、呉市民待望の朗報が届きました。市立呉高校の春の甲子園大会出場決定の知らせであります。

私は、昭和38年、母の看病のために、高校1年生の春休みにほとんど国立病院（現・国立病院機構呉医療センター）で過ごしました。ちょうどそのとき、呉港高校が春の甲子園大会に出場しており、待合室のテレビで、ほぼ全試合を見ました。他県のチーム同士の試合には全く興味を示さない患者さんたちが、呉港高校の試合のときには、皆、小さな白黒テレビにかじりつき、一投一打に歓声をあげる光景を見て、郷土のチームが甲子園に出るとこんなにも市民に一体感が生まれ、病氣の人たちをも元気づけるものかと驚いたのを昨日のこのように覚えています。

そんな原体験もあり、市長

就任以来、何とか呉市から甲子園に出場できないものかと、色々、識者の意見も聴き考えた末、今から思うと大変無茶なお願いをして、中村監督に市立呉高校に来ていただきました。

かつて野球王国といわれた呉市も、長く甲子園から遠ざかっていたため、近年は有力な選手の多くが市外、県外の強豪校に進学する傾向が強い中で、ここ10年、各校とも大変努力をして呉に残ってくれた球児たちを鍛えて、随分と底上げがなされてきたように思います。そういう中での今回の快挙は、「野球王国呉」復活の第一歩となるような気がします。

まずは、監督をはじめ、学校関係者の創部以来の労をねぎらい、厳しい練習に耐えて頑張った選手たちの健闘を称え、そして長年温かく見守り、様々な協力をいただいた多くの市民の皆様にも深く感謝申し上げます。

これから大会まで、まだまだ多くのご協力をいただくことになると思いますが、何卒よろしくお願い致します。そして、50台分のバスの駐車場は確保していただけるということでもありますので、是非ともこぞって54年ぶりとなる呉の高校球児たちの甲子園での活躍を応援に行きましょう。